

屋根に塗るだけで  
省エネ&エコ

エアコン消費電力削減と  
CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献!

# ALES COOL

## アレスクールプライマー

弱溶剤2液変性エポキシ樹脂  
屋根用高日射反射率(遮熱)下塗り塗料

## アレスクールメタルプライマー

弱溶剤1液変性エポキシ樹脂  
屋根用高日射反射率(遮熱)下塗り塗料

### 塗料タイプ

#### ■アレスクールプライマー

変性エポキシ樹脂

弱溶剤系

2液形

□ 容量: 16kgセット (15.2kg/0.8kg)

#### ■アレスクールメタルプライマー

変性エポキシ樹脂

弱溶剤系

1液形

□ 容量: 16kg

### 主な適用素材と適用上塗り

- ● 金属系屋根材 (カラートタン・金属折板)  
アレスクールプライマー・アレスクールメタルプライマー
- ● 適用上塗り  
アレスクール2液F、アレスクール1液Si、アレスクール2液Si  
アレスクール2液U、アレスクール水性F、アレスクール水性Si

### 消防法による危険物区分

- アレスクールプライマー  
ベース: 指定可燃物可燃性液体類  
硬化剤: 第4類第2石油類 (非水溶性)
- アレスクールメタルプライマー  
第4類第2石油類 (非水溶性)

### 特長

- 1 アレスクールシリーズの専用プライマーで、上塗りを透過した赤外線を効率よく反射します。
- 2 アレスクールの赤外線反射システム「Wブロック効果」を有しています。
- 3 アレスクールプライマーはアレスクールメタルプライマーに比べ、高反射性・高防食性を有します。
- 4 アレスクールメタルプライマーは1液速乾形であり、作業効率が良好です。JIS K 5674と同等以上の防錆力があります。

塗装仕様	工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈材 (希釈率)
金属系屋根素材 (トタン屋根・鋼板屋根) 標準塗り替え仕様	1 素地調整	劣化塗膜(膨れ・割れ・浮き)、ゴミ、汚れ、錆などを高圧水洗および手工具等により入念に除去し、十分乾燥させる。				
	2 補修塗り	アレスクールプライマー	0.21	ハケ・ローラー・(エアレス)	8時間以上7日以内	塗料用シンナーA (0~5%)
		アレスクールメタルプライマー	0.13		4時間以上7日以内	塗料用シンナーA (0~10%)
	3 下塗り	アレスクールプライマー	0.21	ハケ・ローラー・(エアレス)	8時間以上7日以内	塗料用シンナーA (0~5%)
		アレスクールメタルプライマー	0.13		4時間以上7日以内	塗料用シンナーA (0~10%)
4 上塗り(1回目)	アレスクール2液Si	0.12	ハケ・ローラー・(エアレス)	4時間以上7日以内	塗料用シンナーA (5~15%)	
5 上塗り(2回目)	アレスクール2液Si	0.12	ハケ・ローラー・(エアレス)	-	塗料用シンナーA (5~15%)	

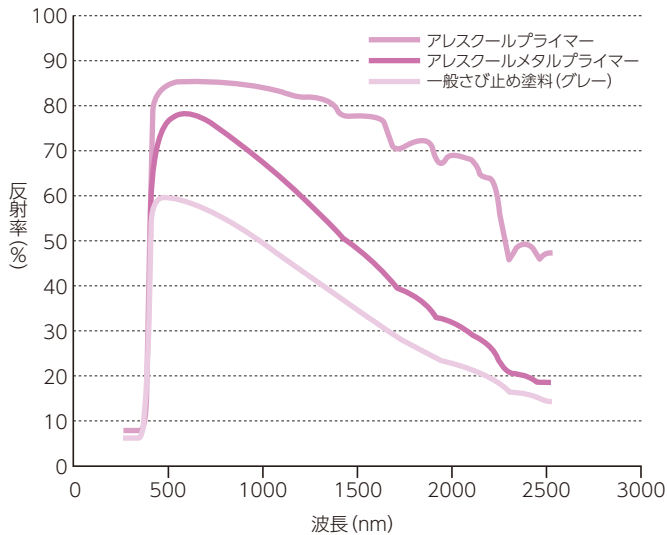
# ALES COOL

## アレスクールプライマー アレスクールメタルプライマー

### 下塗り塗膜の分光反射率(JISK5602 準拠)

測定機器：(株)島津製作所 Solid Spec-3700

測定方法：白黒隠蔽紙上に下塗り塗料を塗装後、  
上記機器にて黒上塗膜の日射反射率を測定。



通称名		弱溶剤2液変性エポキシ樹脂 屋根用高日射反射率(遮熱) さび止め塗料	弱溶剤1液変性エポキシ樹脂 屋根用高日射反射率(遮熱) さび止め塗料
商品名		アレスクールプライマー	アレスクールメタルプライマー
塗装間隔	23℃	最短 8時間	4時間
		最長 7日	7日
性能	日射反射率	◎	○
	耐チゾミ危険性	◎	◎
	防食性	◎	○
	耐水性	◎	○
	耐アルカリ性	◎	△
	耐揮発油性	◎	○
素材適性	金属折板	◎	◎
	カラートタン	◎	◎
	ガルバリウム鋼板	◎ (試験施工が必要です)	×
	新生瓦	◎ (シーラー工程が必要です)	×
	波型スレート板	◎ (シーラー工程が必要です)	×
	日本瓦・洋瓦	×	×

### 施工上の注意事項

- 本注意事項及びご使用になる上塗りのリーフレットに記載の注意事項を必ずご確認の上、施工を行ってください。
- ① 窯業系素材(新生瓦やスレート瓦等)へはアレスクールシーラーをご使用ください。アレスクールプライマー・アレスクールメタルプライマーは鉄トタン専用のプライマーとなります。
- ② 塗装後、降雨や結露などで白化した場合や塗装間隔が7日以上になる場合は目直しを行ってから再度塗装してください。
- ③ アレスクールプライマーはベースと硬化剤がセットになっている2液型の塗料です。所定の割合(重量比)で混合して、十分攪拌した後にご使用ください。また、調合した塗料は、必ずその日のうちに使用してください。長時間経過した塗料を塗装した場合、塗膜性能が低下します。
- ④ 品質が保持する塗膜性能を十分に発揮させるために、専用の上塗り及び所定の塗り回数と膜厚確保による施工を行ってください。
- ⑤ トタン素地露出部はアレスクールプライマーまたはアレスクールメタルプライマーで補修塗りを行い、その後標準塗装仕様で塗装してください。

- ⑥ スノードクトのような勾配のほとんど無い屋根の塗り替えは、高い耐水性能を要求されるため必ず標準塗装仕様(アレスクールプライマー)を遵守してください。また、没水部への適用は避けてください。
- ⑦ ガルバリウム鋼板は素材自体が遮熱性と熱放射性に優れています。一般塗料に比べアレスクールは遮熱効果を発揮しますが、素材自体と比較した場合、それほど遮熱効果は期待できませんのでご注意ください。
- ⑧ ガルバリウム鋼板屋根の塗り替えは下記の要領で行ってください。  
ケース1 [旧塗膜がある場合]:旧塗膜の付着が健全であることを確認の上、目直しを行い、標準仕様で塗装してください。  
ケース2 [旧塗膜がない場合]:ガルバリウム鋼板表面には化学処理等が施されている場合があり、特に新設時には塗料の付着性が著しく劣ることがあります。(尚、化学処理は経年で流れ落ちるため、塗装適性は向上します。)そのため事前にアレスクールプライマーを試験塗装し、ガムテープで付着性が良好なことをご確認の上、塗装仕様書に基づき施工してください。付着が良くない場合は、使用しないでください。

### ご使用上の注意事項

■ 下記の注意事項を守ってください。 ■ 詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

#### 予 防 策

- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護メガネ・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 火気を避けること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- 火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
- 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

#### 対 応

- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診

#### 察を受けること。

- 吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

#### 保 管

- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
- 直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
- 子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

#### 廃 棄

- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所に廃棄しないこと。)

#### 施工後の安全

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

## 関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ  
www.kansai.co.jp

本 社 TEL (03) 5711-8904 FAX (03) 5711-8934  
北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757  
東 北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073  
北関東 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223  
東 京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935

中 部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981  
大 阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603  
中 国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285  
四 国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950  
九 州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

ご用命は

※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご諒承ください。

(17年08月04刷PKO) カタログNo.705